

「公印省略」

3農林試第930号-3  
令和3年7月28日

各関係機関団体の長 }  
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

令和3年度病虫害発生予察技術情報第3号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第3号「海外飛来性害虫の飛来状況（第2報）」を発表しましたので送付します。

### 技術情報第3号

1 作物名 水稻

2 病虫害名 海外飛来性害虫（セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガ）

3 発生状況

(1) 飛来状況

1) 県内予察灯(5か所)では、5月10日の初誘殺から6月23日にかけてトビイロウンカの誘殺が複数回確認されたが、以降は7月22日まで誘殺されていない。セジロウンカは5月23日の初誘殺以降、7月22日まで複数回の誘殺が確認され、誘殺数は平年並であった。

ネットトラップ(1か所)では、5月29日、6月4日および7月10日にセジロウンカが捕獲された。コブノメイガは予察灯およびネットトラップで捕獲されていない。

2) セジロ・トビイロウンカの飛来日を5月14日、6月8日、6月23日、7月4日、7月9日とし、主飛来日を7月9日と推定した(図1)。(「JPP-NET」の飛来解析・県内の調査結果・近隣県の飛来状況を参考)

また、近隣県のコブノメイガ飛来状況、同じ海外飛来性であるセジロ・トビイロウンカの県内調査結果を基に、コブノメイガの飛来日を6月8日、6月23日、7月9日と推定した(図2)。

(2) 7月5半旬のほ場調査結果(セジロウンカ・トビイロウンカ)

1) セジロウンカ

10株当たりの払落し成幼虫数は平均1.0頭(平年19.1頭、前年10.8頭)、発生ほ場率は43.5%(平年71.7%、前年76.1%)で、発生量は平年・前年より少なかった。

2) トビイロウンカ

10株当たりの払落し成幼虫数は平均0頭(平年1.0頭、前年7.1頭)、発生ほ場率は0%(平年17.0%、前年43.5%)で、払落し虫数・ほ場率ともに平年・前年より少なかった。

#### 4 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生状況については、病害虫防除所が発表する病害虫発生予察情報に注意する。
- (2) トビイロウンカは、田植時期や使用した育苗箱施薬剤の種類、地域およびほ場による発生の差が大きい。また、育苗箱施薬剤が施用されたほ場でも、田植後1か月以上経過すると農薬の効果の低下に伴い増殖しやすくなるので、発生予想パターン図を参考に、ほ場における発生状況を把握し、発生が多い場合は幼虫期に防除を行う。

＜要防除水準：トビイロウンカ幼虫の合計数＞

飛来後第1世代：20頭／100株

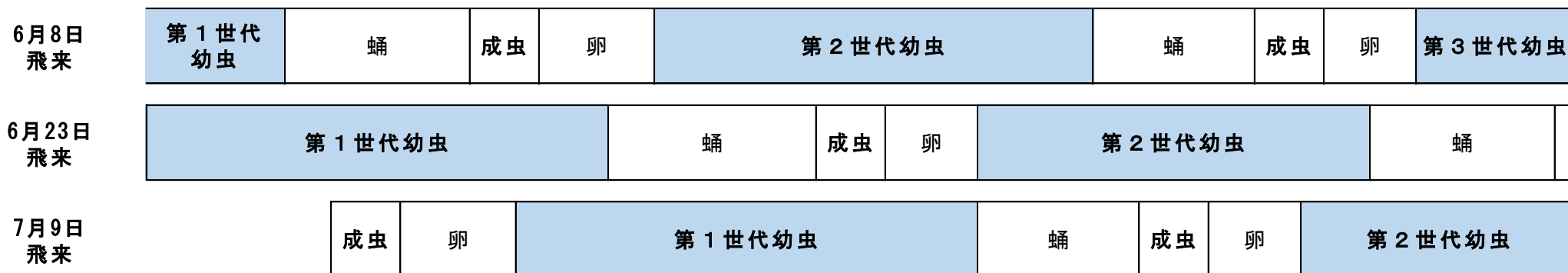
飛来後第2世代：100頭／100株

- (3) 無人ヘリコプターによる防除を気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に気化し、防除効果が著しく低下する場合がありますので、気温が上昇する前の早朝に実施する。
- (4) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守する。
- (5) 病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。  
「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>





月	7月															8月																																
日				5				10				15				20				25				31				5				10				15				20				25				31



- (注) (1) 防除適期は発蛾最盛期から1週間後である。
- (2) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出した。  
 発育零点 (卵13.0°C、幼虫12.5°C、蛹14.2°C)、発育上限温度28.5°C、発育停止温度33.0°C、有効積算温度 (卵50.0°C、幼虫250.0°C、蛹90.0°C)
- (3) 気温はアメダス大宰府を使用した。(7月27日までは実測値、以降は平年値)

図2 飛来に基づくコブノメイガの発生予想パターン図 (第2報: 令和3年7月28日作成)